



子どもが発しているサインに対して、親はどのように向き合うのかを考える

# 学校に行かないということ

文部科学省が発表した学校基本調査（速報値）によると 2014 年度に病気や経済的な理由以外で年間 30 日以上欠席した「不登校」の小中学生は、前年度より約 3,300 人多い 12 万 2655 人に上ることが分かりました。陰湿ないじめや対人関係…さまざまな理由で不登校になる子どもたちに、大人はどう接していけばよいのでしょうか？

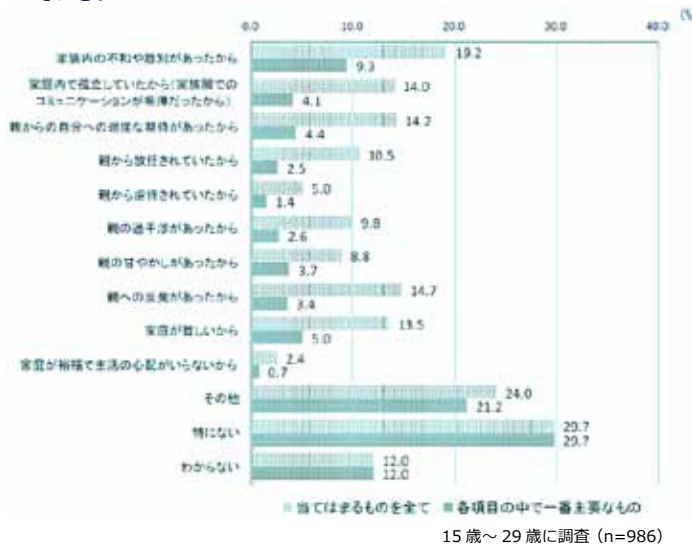


## ■ グラフから見てみよう ■

社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験した主な理由は何ですか。（複数回答）

### <家族・家庭について>

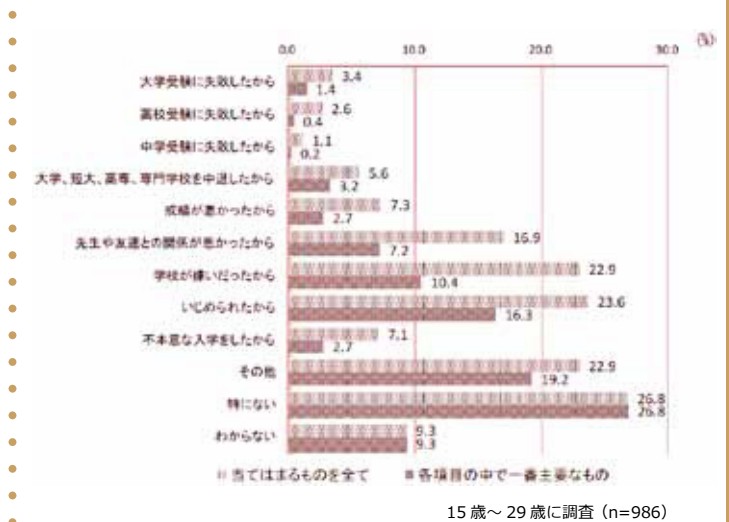
社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかったと思う家族・家庭についての主な理由では、「家族内の不和や離別があったから」が 19.2%と最も高く、次いで、「親への反発があったから」14.7%、「親からの自分への過度な期待があったから」14.2%となっている。また、各項目の中で最も主要な理由は、「家庭内の不和や離別があったから」が 9.3%と最も高く、「家庭が貧しいから」5.0%、「親からの自分への過度な期待があったから」4.4%となっている。



社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験した主な理由は何ですか。（複数回答）

### <学校について>

社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかったと思う学校についての主な理由では、「いじめられたから」が 23.6%と最も高く、次いで、「学校が嫌いだったから」22.9%、「先生や友達との関係が悪かったから」16.9%となっている。また、各項目の中で一番主要な理由は、「いじめられたから」が 16.3%と最も高く、次いで、「学校が嫌いだったから」10.4%、「先生や友達との関係が悪かったから」7.2%となっている。



参考：内閣府 平成 24 年度「若者の考え方についての調査」（二一ト、ひきこもり、不登校の子ども・若者への支援等に関する調査）から一部抜粋

## 教育機会確保法



2015 年 5 月、学校以外の場所（フリースクールや家庭など）で学んでいても義務教育修了とみなし、学校外の学びを応援する「(仮) 多様な教育機会確保法」という試案が発表されました。学校以外の場で学習することが正式に認められれば、学び場をたくさんの中から選べることになり、その子にあった選択を共に考えることとなります。

ですがこの法案に懸念もあります。保護者が学校と同じような学習計画を立てられるのか、義務教育の民営化や、家庭の学校化を招いて子どもの安心できる場所を狭めているのではないか、不登校の子どもと保護者をますます追い詰めるのでは、といった声も出ています。もちろん学校でしか学べないこともたくさんあります。社会性や、見識を培う場にもなるでしょう。大人の都合だけで決めるのではなく、子ども達にとって最適な判断をしてほしいものです。

## 「特定非営利活動法人 フリースクール三重シュール」さんにお話を伺いました



### 🔊 フリースクール三重シュールとはどんな場所ですか？

「いっしょに生きる・『個』で育つ」ことを大切にしています。安心できる・気軽に来れる場所を子どもとスタッフで作っています。一時的な避難場所として来る子どももいますし、ここで育ち・学ぶ（通信制高校とも連携）ことを選ぶ子どももいます。

### 🔊 不安を抱えている子どもにどう接するのが良いのでしょうか？

三重シュールでは、対等な人間関係を大切に、子どもを評価することはありません。信頼関係はその延長にあると考えています。この信頼関係の中で子どもたちは「不安」を解決していきます。

### 🔊 大人は子どもをどう支えていけばいいのでしょうか？

子どもは絶対に育ちます。今の厳しい世の中で精一杯生きています。保護者・教育関係者は自分の頭の中で描いている「理想の子ども像」を追い出し、今「目の前にいる子ども」を受け止め、子どもの成長を心から信頼してほしいです。

### 🔊 親・保護者に大切にしてほしいこと

不登校・教育相談では「今まで頑張ってきたのに今は頑張っていない」と言う保護者が多いです。子どもは色々なことを見聞きし経験し成長している途上です。（大人も同様ですが）「頑張らないこと」もありでしょうし、大人の目から見て頑張っているかどうかを評価することは、子どもにとっては自分の心や成長のプロセスを否定されたことにならないでしょうか。

子どもの育ち方はさまざまです。他の子どもと比較をしないで、子どもの「試行錯誤」を応援していただきたいです。

## 「三重県総合教育センター」さんにお話を伺いました



### 🔊 三重県総合教育センターでは、どういった内容の相談が多いですか？

幼児から高校生までの子どもを対象に、保護者をはじめとするご家族やご本人、教職員や地域の方々から、年間約 8,000 件を超える相談（面面相談及び電話相談）があります。その中で一番多い相談は不登校に関することです。

なぜ不登校になるのか、自分でも明確な理由がわからないというお子さんもたくさんいらっしゃいます。新しい環境や対人関係など、さまざまな要因があるのではないかと思います。そういった子どもとじっくり話をし、子どもの心の声をしっかりと受けとめ、どうしたら心の負担が減るのか一緒に考えていきます。

### 🔊 子どもとの関わり方とは？

子どもの悩みやご家庭の状況はさまざまですので、子どもへの関わり方は、その子どもによって違ってくると思います。

絶対にこうするべきだと押しつけずに、子ども本人の成長する力、伸びようとする力を信じて、一緒に考えていくことが大切です。

子どもは、悩みを誰にも相談できずに抱え込んでしまうこともあります。民間、公的、学校、地域で相談にのってくれるところがたくさんあり、あなたのことをちゃんと受け止めようとしている大人が身近にいることを知ってほしいと思います。

本人もご家族も一緒に考えることで安心感をもっていただければ幸いです。社会に溶け込もうと焦る気持ちになるとは思いますが、少しでも社会との接点があれば、一緒になって解決策をさがしていけるところと出会うのではないのでしょうか。

お子さんは、毎日楽しそうに過ごしているように見えますか？

子どもの気持ちをわかった気でいませんか？

本当は辛い想いをしているのに隠している子どもは多いと思います。学校へ行きたくない…それは子どもからの SOS かもしれません。そんな時にそばにいる家族・保護者が些細な変化に気づいてあげることが大切です。

この子はこういう性格だから…などと決めつけずに、子どもの目線に立ち、話を聞いてあげてください。何が不安なのか一緒に考えるだけでも子どもたちにとって大きな支えになるのではないのでしょうか。